

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成29年6月8日(2017.6.8)

【公開番号】特開2016-23497(P2016-23497A)

【公開日】平成28年2月8日(2016.2.8)

【年通号数】公開・登録公報2016-009

【出願番号】特願2014-149751(P2014-149751)

【国際特許分類】

E 0 3 D 13/00 (2006.01)

【F I】

E 0 3 D 13/00

【手続補正書】

【提出日】平成29年4月24日(2017.4.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

小便器のボウル部に水を供給する洗浄水供給手段と、  
殺菌水を生成する殺菌水生成手段と、  
前記殺菌水生成手段の下流の側に設けられ、前記殺菌水生成手段により生成され液滴化された前記殺菌水を前記ボウル部の内部の空間に散水する散水孔を有する洗浄水散水手段と、  
を備えたことを特徴とする小便器装置。

【請求項 2】

前記小便器の使用を検知する人体検知手段をさらに備え、  
前記人体検知手段が人体検知状態から人体非検知状態へ移行し、前記洗浄水供給手段が前記ボウル部に前記水を供給した後に、前記洗浄水散水手段が前記空間に前記殺菌水を散水することを特徴とする請求項 1 記載の小便器装置。

【請求項 3】

前記洗浄水供給手段が 1 回の動作で前記ボウル部に供給する水量は、前記洗浄水散水手段が 1 回の動作で前記空間に散水する水量よりも多く、  
前記洗浄水供給手段により供給される前記水は、前記殺菌水を除く真水であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の小便器装置。

【請求項 4】

前記殺菌水生成手段が故障したと判断されると、前記洗浄水散水手段の前記散水の動作が禁止されることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 つに記載の小便器装置。

【請求項 5】

前記殺菌水生成手段は、電解槽と、前記電解槽の内部に設けられた電極と、を有し、  
前記電極に印加された電圧が所定値以下となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする請求項 4 記載の小便器装置。

【請求項 6】

前記殺菌水生成手段は、電解槽と、前記電解槽の内部に設けられた電極と、を有し、  
前記電極を流れる電流が所定値以下となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする請求項 4 記載の小便器装置。

【請求項 7】

前記殺菌水生成手段は、電解槽と、前記電解槽の内部に設けられた電極と、を有し、  
前記電極の通電時間が所定値以上となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする請求項４記載の小便器装置。

【請求項８】

前記通電時間が、前記所定値未満であり、前記所定値よりも小さく前記所定値とは異なる他の所定値以上となると、前記電極に印加される電圧が上がることを特徴とする請求項７記載の小便器装置。

【請求項９】

前記殺菌水生成手段は、電解槽を有し、  
前記電解槽を流れる水の積算水量が所定値以上となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする請求項４記載の小便器装置。

【請求項１０】

前記殺菌水生成手段は、前記電解槽の内部に設けられた電極をさらに有し、  
前記積算水量が前記所定値未満であり、前記所定値よりも小さく前記所定値とは異なる他の所定値以上となると、前記電極に印加される電圧が上がることを特徴とする請求項９記載の小便器装置。

【請求項１１】

前記殺菌水生成手段は、電解槽を有し、  
前記電解槽を流れる水の流量が所定値以下となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする請求項４記載の小便器装置。

【請求項１２】

小便器と、  
請求項１～１１のいずれか１つに記載の小便器装置と、  
を備えたことを特徴とする小便器ユニット。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１６】

第５の発明は、第４の発明において、前記殺菌水生成手段は、電解槽と、前記電解槽の内部に設けられた電極と、を有し、前記電極に印加された電圧が所定値以下となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする小便器装置である。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１８】

第６の発明は、第４の発明において、前記殺菌水生成手段は、電解槽と、前記電解槽の内部に設けられた電極と、を有し、前記電極を流れる電流が所定値以下となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする小便器装置である。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２０】

第７の発明は、第４の発明において、前記殺菌水生成手段は、電解槽と、前記電解槽の内部に設けられた電極と、を有し、前記電極の通電時間が所定値以上となると、前記殺菌

水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする小便器装置である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

第9の発明は、第4の発明において、前記殺菌水生成手段は、電解槽を有し、前記電解槽を流れる水の積算水量が所定値以上となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする小便器装置である。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

第11の発明は、第4の発明において、前記殺菌水生成手段は、電解槽を有し、前記電解槽を流れる水の流量が所定値以下となると、前記殺菌水生成手段が故障したと判断されることを特徴とする小便器装置である。